

吉川キリシタン墓碑群

南島原市南有馬町にあるこれらの4基の墓碑は、有明海の向こうに天草を望む美しい景色が見える仏教墓地に置かれています。4基のうち2基は小さな覆屋で保護されています。短い方は平置きで四角柱型で、長い方は平置きで半円柱型です。この2基には二つの共通する特徴があります。一つ目は、それぞれの墓碑の上部と土台部が一個の石から彫り出されていることです。二つ目は、これらは両方とも島原半島では珍しい溶結凝灰岩で作られていることです。

他の2基は風雨にさらされたままになっています。苔に覆われている立碑の方は、かつては平置きにされていました。この墓石の地面から突き出ている部分は41cmですが、全長は不明です。それを別にしても、この墓石は非常に厚みがあるように見えます。

南有馬町は殉教したキリシタン武士アダム荒川の生まれた場所でもあります。外国人司祭が追放された後、この地域のキリシタンたちの世話をしていたアダム荒川は、1614年に天草で斬首されました。荒川は、2008年にローマ教皇ベネディクト16世によって列福された日本人殉教者188人の1人です。

日本のキリシタン墓碑について

日本におけるキリスト教の初期につくられたキリシタン墓碑として確認されている192基のうち、146基が長崎県にあり、その全てが17世紀初期のもので、（1581年につくられた日本で最も古いキリシタン墓碑は、大阪市に近い四條畷市にあります。）長崎地域のキリシタン墓碑は、当時のヨーロッパの墓のデザインを反映し、平板型・切妻型・半円柱型・角柱型のいずれかに整形した石を平置きにしたものがほとんどです。仏教の墓石には漢字数文字からなる故人の死後の名前（戒名）が刻まれるのに対し、キリスト教の墓石には、多くの場合、西洋式の洗礼名が記されます。花十字や横棒が二本の形十字、イエス・キリストの名前の略語である「HIS」という3文字で飾られていることもあります。石の墓標は高級品だったため、墓碑で弔われているのは金銭と権力に恵まれた人々だったと考えて良いでしょう。キリスト教が禁止された後、このような平置きで墓石の中には、くり抜かれて手を洗うための手水鉢にされたり、石垣に組み込まれたり、地中に埋められたりして、仏教の建造物の一部に転用されたものもありました。長崎のキリシタン墓碑は、ほとんどが当初置かれた場所には残っていないものの、もとの設置場所の付近で発見されることがよくあります。